

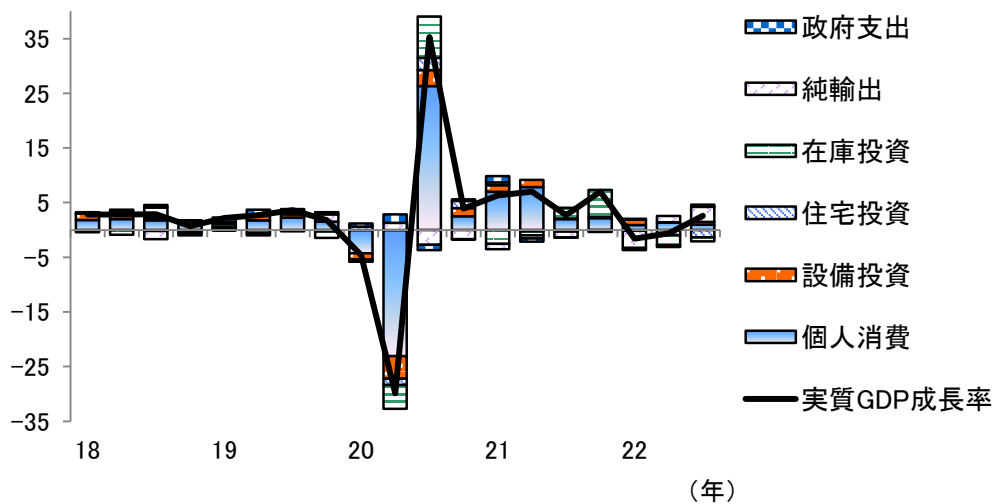
アメリカ経済グラフポケット (2022年11月号)

2022年11月7日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター 上野 まな美
主任研究員 矢作 大祐

実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



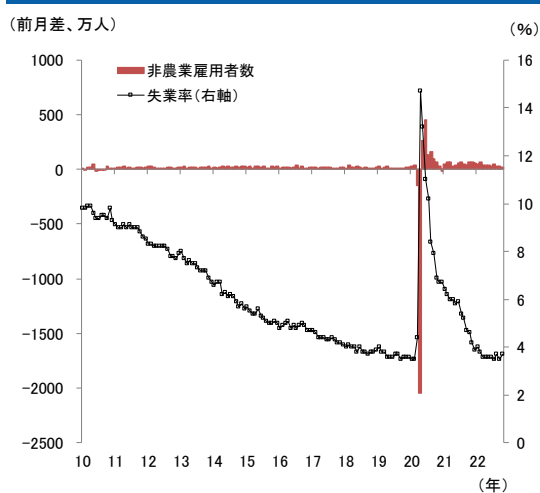
(前期比年率、%、%pt)	2020	2021				2022		
	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9
国内総生産	3.9	6.3	7.0	2.7	7.0	-1.6	-0.6	2.6
個人消費	3.9	10.8	12.1	3.0	3.1	1.3	2.0	1.4
設備投資	11.5	8.9	9.9	0.6	1.1	7.9	0.1	3.7
住宅投資	33.4	11.6	-4.9	-5.8	-1.1	-3.1	-17.8	-26.4
政府支出	-0.1	6.5	-3.0	-0.2	-1.0	-2.3	-1.6	2.4
輸出	24.2	0.4	4.9	-1.1	23.5	-4.6	13.8	14.4
輸入	32.9	7.6	7.9	6.6	18.6	18.4	2.2	-6.9
寄与度								
個人消費	2.5	7.0	7.8	2.0	2.1	0.9	1.4	1.0
設備投資	1.5	1.2	1.3	0.1	0.2	1.0	0.0	0.5
住宅投資	1.3	0.5	-0.2	-0.3	-0.1	-0.2	-0.9	-1.4
在庫投資	0.3	-2.5	-0.8	2.0	5.0	0.2	-1.9	-0.7
政府支出	0.0	1.2	-0.5	0.0	-0.2	-0.4	-0.3	0.4
輸出	2.2	0.0	0.5	-0.1	2.4	-0.5	1.5	1.6
輸入	-3.9	-1.1	-1.1	-1.0	-2.5	-2.6	-0.4	1.1

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

雇用環境¹

- ◆ 10月の失業率は前月から0.2%pt上昇し3.7%となり、2ヵ月ぶりに上昇したが、4%を下回る水準が2022年2月以来続いている。
- ◆ 10月の非農業部門雇用者数の前月差は26.1万人増となった。上方修正された前月からは伸びが鈍化したものの、高水準を維持し、雇用環境の堅調さが示された。
- ◆ 非農業部門雇用者数の前月差の6ヵ月平均は34.7万人増であった。

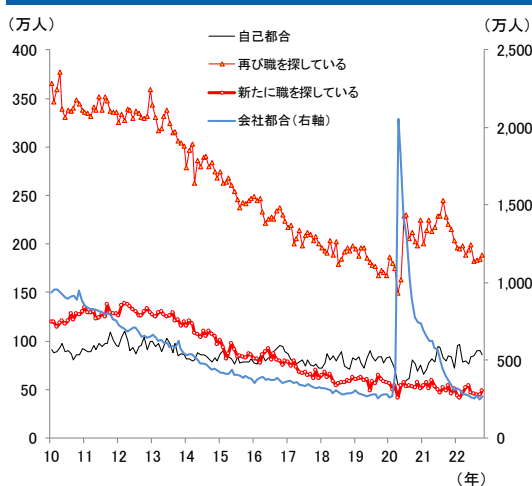
非農業雇用者数と失業率



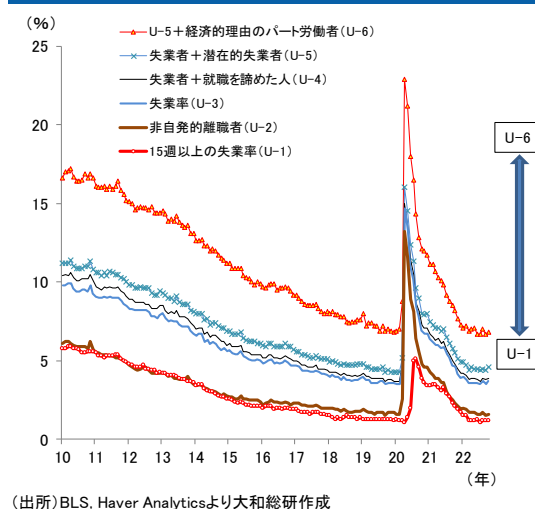
労働参加率と就業率



理由別失業者数



定義別失業率

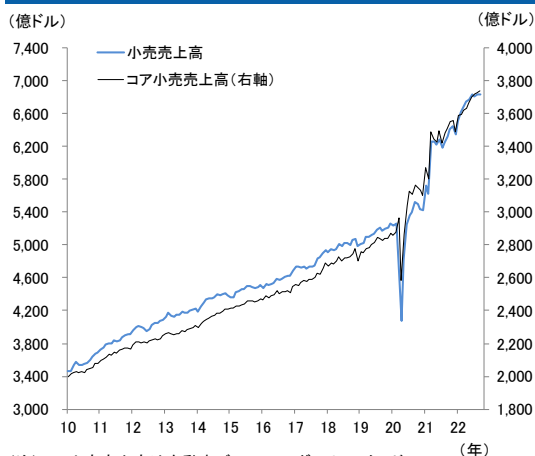


¹ 大和総研レポート ニューヨークリサーチセンター 矢作大祐「非農業部門雇用者数は前月差+26.1万人」(2022年11月7日)参照。https://www.dir.co.jp/report/research/economics/usa/20221107_023383.html

個人消費

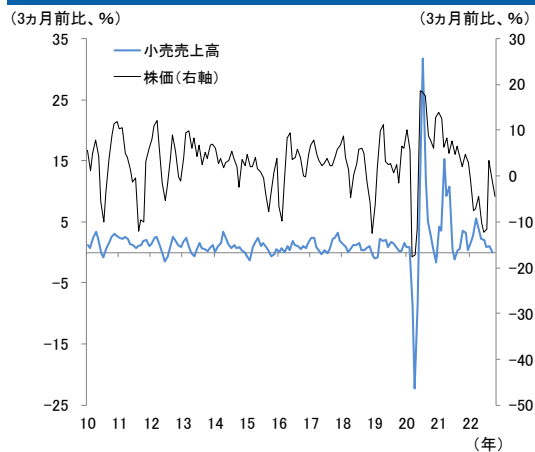
- ◆ 9月の小売売上高は前月から横ばいとなった。コア小売売上高は、デパートや無店舗小売業者（オンライン）の売上増などにより、前月比0.4%増と9ヵ月連続で増加した。
- ◆ 10月の自動車販売台数は前月比11.7%増加し、年率換算1,532万台となった。在庫不足の解消やメーカーからの奨励金の増加などが押し上げ要因となり、前月から大幅に増加し、2021年5月以来の高水準となった。
- ◆ 10月のロイター／ミシガン大消費者センチメントは、前月の58.6から59.9へ上昇した。統計開始以来の最低水準を記録した2022年6月の後4ヵ月連続で改善したものの、高インフレへの懸念は続き、消費者マインドは低水準のままである。

小売売上高の推移



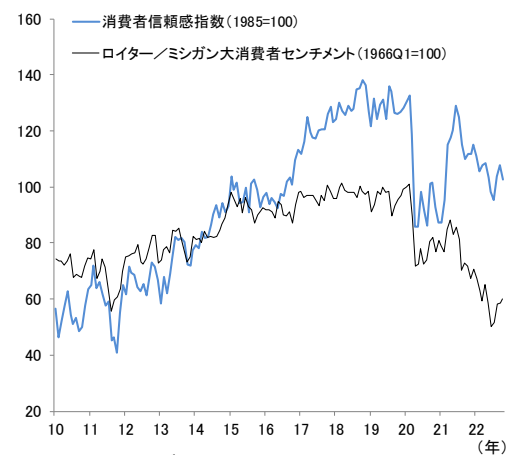
(注)コア小売売上高は自動車ディーラー、ガソリンスタンド、建材・園芸、飲食サービスを除く。
(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

消費と株価



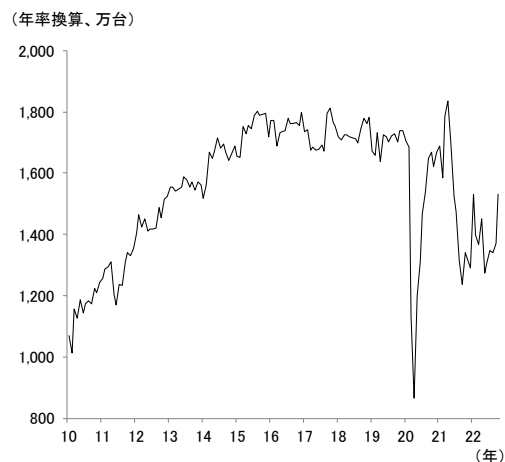
(注)株価はWilshire5000。
(出所) Census, Dow Jones, Haver Analyticsより大和総研作成

消費者マインド



(出所)ロイター／ミシガン大, Conference Board, Haver Analyticsより大和総研作成

自動車販売台数

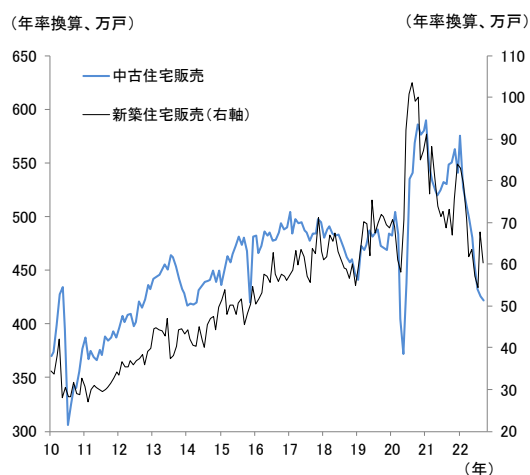


(出所) Autodata, Haver Analyticsより大和総研作成

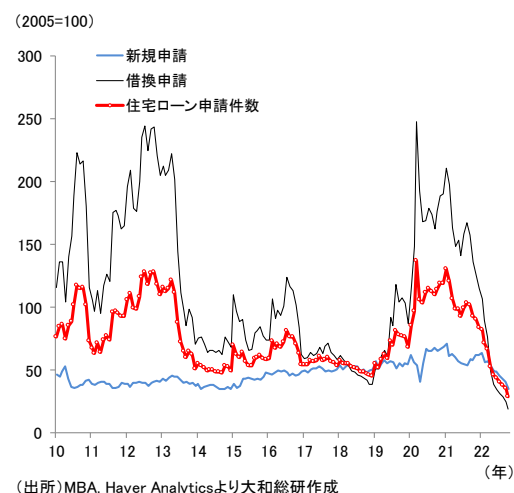
住宅市場

- ◆ 9月の新築住宅着工件数（一戸建てと集合住宅を含む）は、前月比8.1%減の年率換算143.9万戸となった。着工件数は一戸建てと集合住宅ともに落ち込み、減少に転じた。
- ◆ 9月の中古住宅販売件数（一戸建て）は、前月比0.9%減の年率換算422.0万戸であった。住宅ローン金利の上昇や住宅価格の高止まりが響き、8ヵ月連続で減少した。8ヵ月連続の減少は、2007年のサブプライム住宅ローン危機時以来である。
- ◆ 9月の新築住宅販売件数（一戸建て）は、前月比10.9%減の年率換算60.3万戸と減少に転じた。大幅増となった前月からの反動とみられる。
- ◆ 8月のケースシラー住宅価格指数（20都市）は、前月から1.3%低下した。同指数は2012年4月以来上昇基調が続いていたが、住宅ローン金利の上昇が響き、2ヵ月連続で低下した。しかしながら、住宅価格は依然として高水準である。

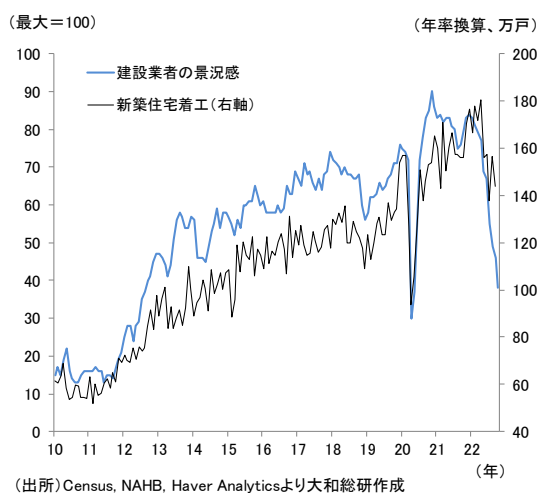
住宅販売（一戸建て）



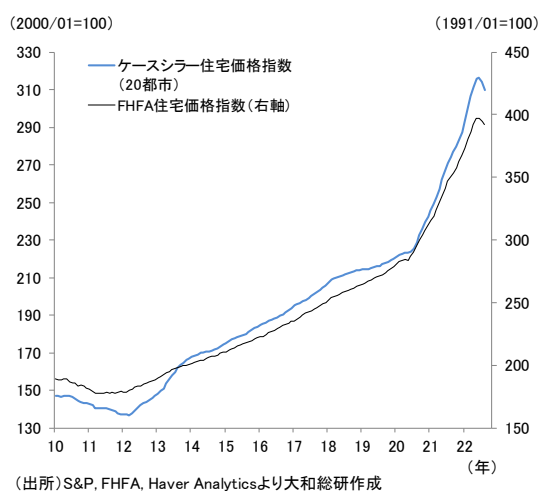
住宅ローン申請件数



住宅着工と建設業者の景況感



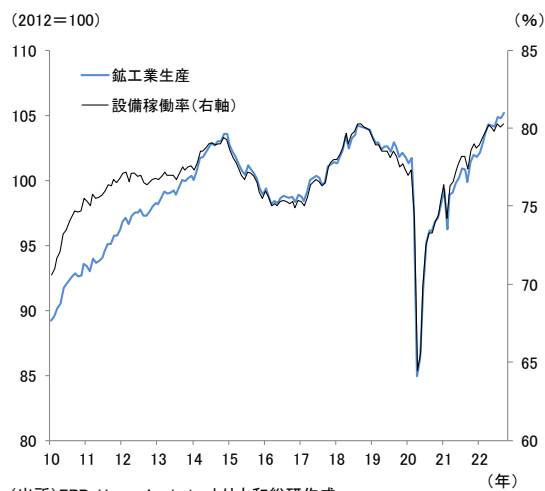
住宅価格



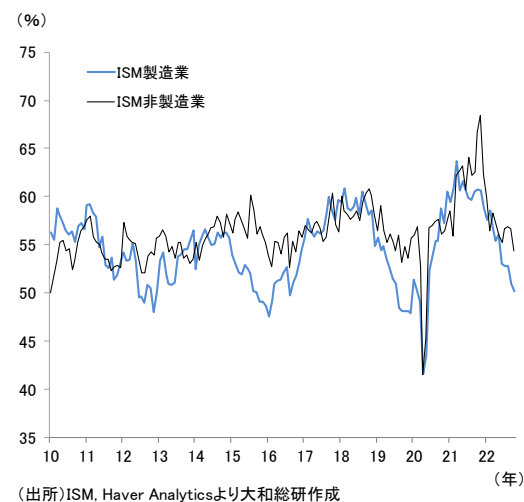
企業動向

- ◆ 9月の鉱工業生産指数は前月比0.4%上昇し、2ヵ月ぶりの上昇となった。生産指数全体の約70%を占める製造業（SICベース）が同0.4%上昇と、3ヵ月連続で上昇したほか、鉱業も上昇し、全体を押し上げた。
- ◆ 9月の国防・民間航空機を除く資本財受注（コア資本財受注）は、前月比0.4%減となった。製造業の堅調さが続いていたが、2022年2月以来の減少に転じた。
- ◆ 10月のISM製造業指数は、前月から0.7%pt低下の50.2%となった。2ヵ月連続で低下し、拡大・縮小の分岐点である50%をこえて上回る水準に落ち込んだ。非製造業指数は、前月から2.3%pt低下の54.4%となり、2ヵ月連続で低下した。非製造業指数は、パンデミック初期の2020年5月以来の低水準となった。

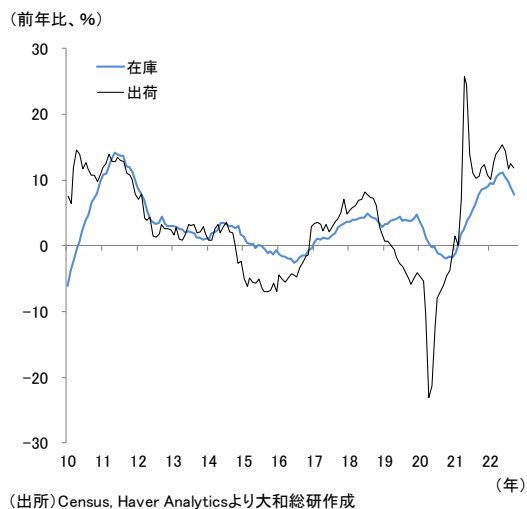
鉱工業生産と設備稼働率



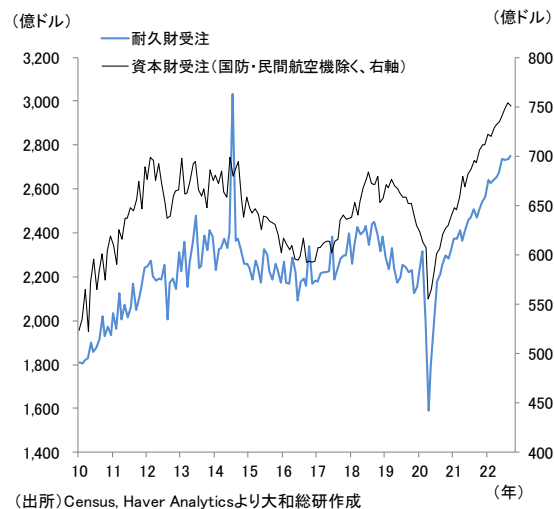
企業の景況感



製造業の出荷・在庫



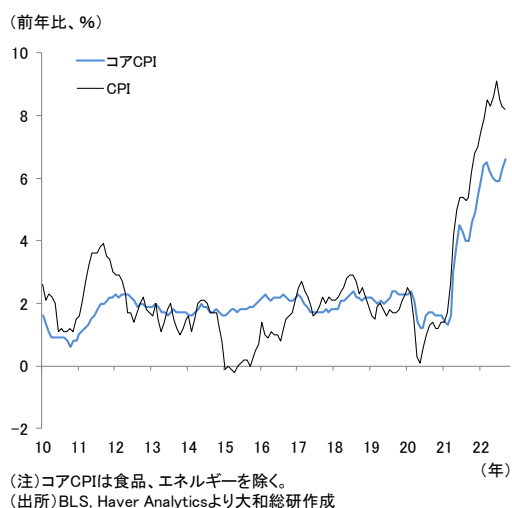
耐久財受注



物価動向

- ◆ 9月のCPI（消費者物価指数）は前年比8.2%上昇した。ガソリン価格の伸びが縮小した一方で、食料品や家賃などの上昇が目立った。3ヵ月連続で伸びが鈍化したものの、2021年11月以降、約40年ぶりの高い伸びが続いている。コアCPIは同6.6%上昇した。上昇率は2ヵ月連続で加速し、1982年8月以来約40年ぶりの高水準を記録した。
- ◆ 10月の2年先期待インフレ率は2.60%と低下に転じ、2022年3月以来の水準に低下した。5年先期待インフレ率は2.39%となり、2ヵ月ぶりに低下した。
- ◆ 10月末のWTI原油先物価格は86.53ドル/バレルとなり、9月末の79.49ドル/バレルから上昇した。OPECプラスが原油の大幅減産で合意したことや、欧州において冬場に向けての燃料需要の拡大が意識されたことなどに起因している。

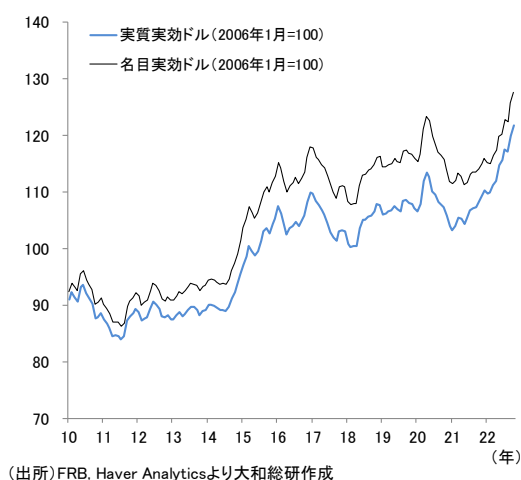
消費者物価指数



期待インフレ率



実効為替レート(ブロード)



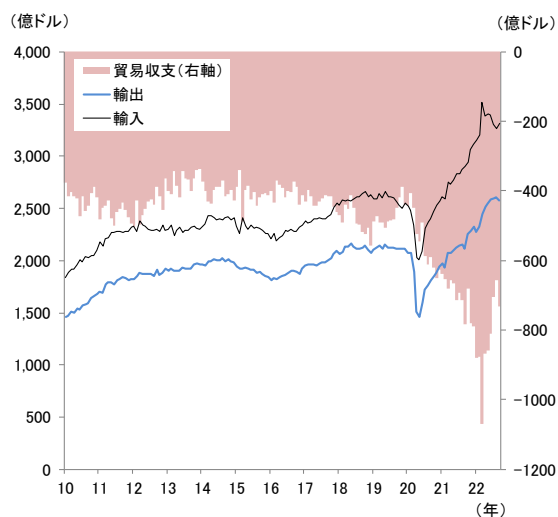
コモディティ価格



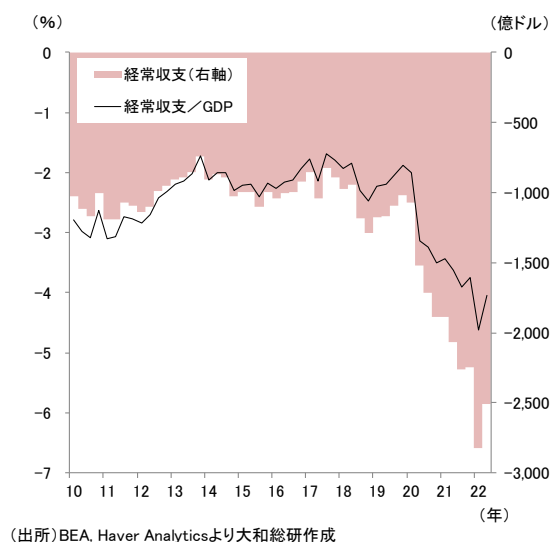
輸出入・経常収支

- ◆ 9月の貿易収支（財・サービス）は、輸出が前月比1.1%減少し、輸入は同1.5%増加した。この結果、貿易赤字は同11.6%増の733億ドルとなり、6ヵ月ぶりに拡大した。
- ◆ 輸出入（財）を商品別に見ると、輸出では原油などの工業製品・原料が主に減少し、輸入においては半導体といった資本財の増加が目立った。
- ◆ 地域別（財）では、中国向けの輸出が前年比8.4%増加したほか、日本向けが同12.3%増、欧州向けが同30.4%増となった。欧州向けは2021年4月以来、二桁台の大幅増が続いている。輸入に関しては、中国からの輸入が同3.9%増、欧州からは同4.0%増、日本からは同9.2%増となった。

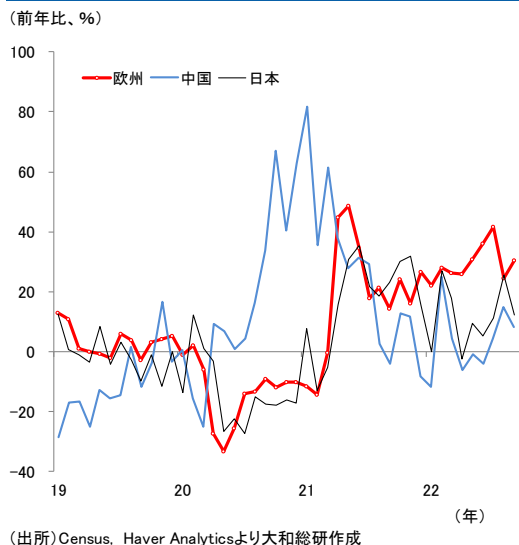
貿易収支動向



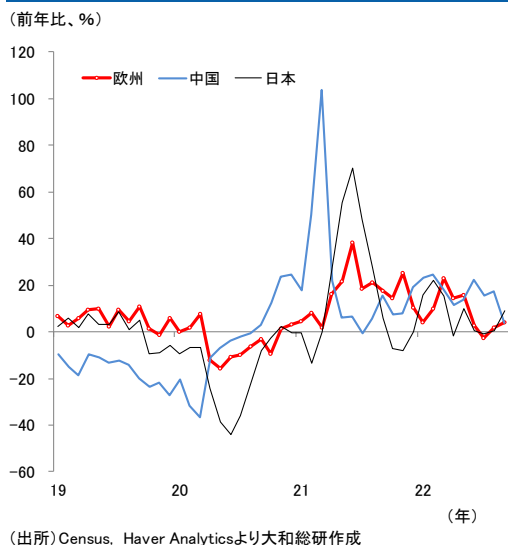
経常収支の推移



国・地域別輸出動向



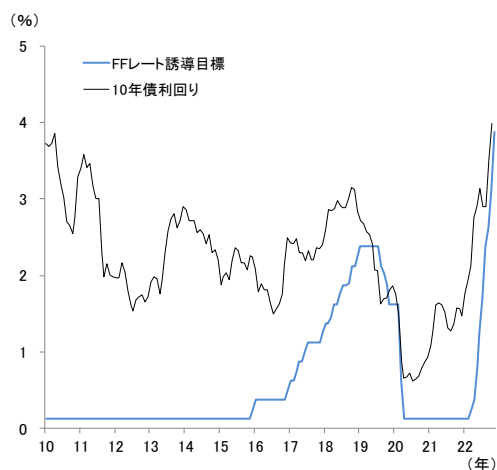
国・地域別輸入動向



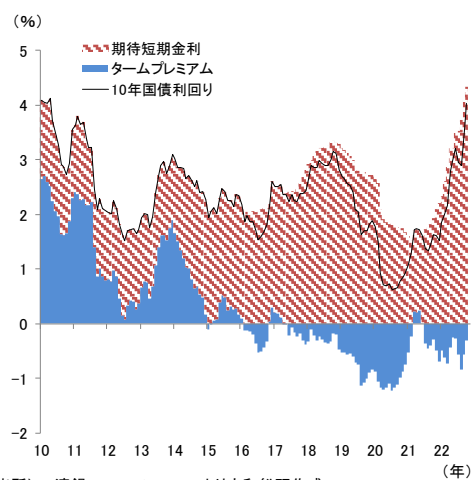
金融・財政

- ◆ 11月のFOMC（連邦公開市場委員会）において、政策金利であるFF（フェデラルファンド）レートの目標レンジが3.75-4.00%へと、0.75%pt引き上げられた。6月のFOMCから4会合連続で0.75%ptの大幅利上げとなり、FFレート水準は2007年12月以来の高さとなった²。11月2日の週のFRBの資産残高は平均で約8兆7,500億ドルであった。
- ◆ 10月の長期金利（10年債利回り）の月中平均値は3.98%となった。高インフレが続く中、FRBによる利上げが予測されて中旬に4%を超え、月中平均値は2008年7月以来の高水準となった。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）の赤字は2ヵ月連続で拡大し、10月は2022年3月以来の水準に悪化した。

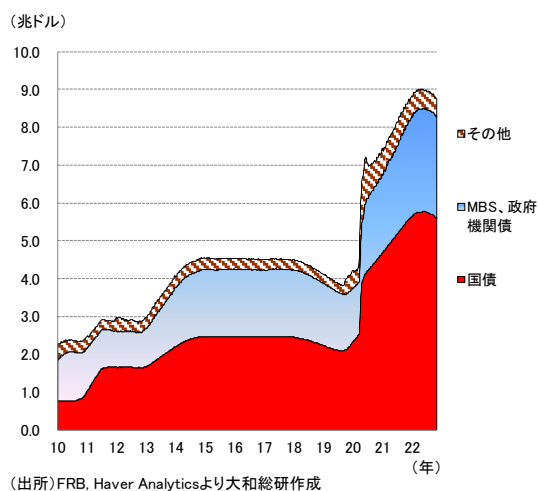
政策金利・長期金利



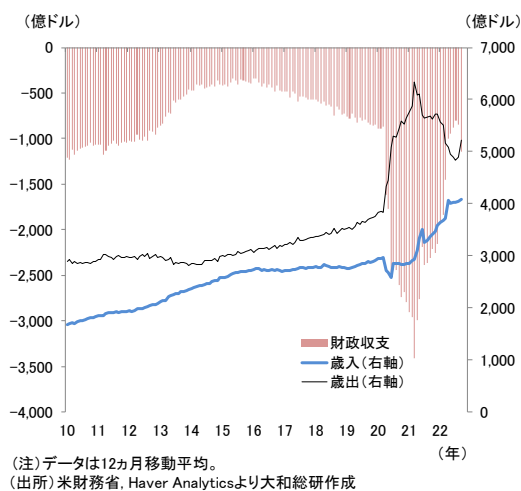
タームプレミアム(10年)



FRBの資産構成



連邦政府の財政収支



² 大和総研レポート ニューヨークリサーチセンター 矢作大祐「FOMC 4会合連続で0.75%ptの利上げを決定」(2022年11月4日)参照。

https://www.dir.co.jp/report/research/economics/usa/20221104_023379.html